

NU PRESS

2012 no.19

見て欲しいと思える仕事を続けていきたい。

Peace Graphics

平井 秀和さん 真矢さん(旧姓瀬川)

(19期卒 デザイン科・20期卒 絵画科洋画専攻)

第10回世界ポスタートリエナーレトヤマ2012で入選、Design for Asia Award 2011でSilver、HKDA GLOBAL DESIGN AWARDでBronzeを4つ受賞するなど大活躍中のピースグラフィックス。ご夫婦でもあるお二人の楽しいデザインライフをお届けします。

名古屋に事務所を構えて10年目のお二人。ちょうどインターンシップで本学の学生が学ぶ中、お仕事のお話を中心に伺いました。

——お忙しい中、お邪魔します。

平井秀和(以下H):今週はだいぶ落ち着いてるけど、一番きついとこれくらい仕事があって、MAXの時はね、これくらい仕事がある。ぐっちゃぐちゃになるの。これみて。(手帖を見せてくれる。)忙しくなるとマスがこんな風に14個ぐらい並んで、この状態の時は自分でも何がなんだかわけがわからなくなってる。実際のこという。(笑)

とにかくずっと仕事したいタイプ。

——立地も含めてとても良い事務所ですね。住居が同じフロアにあるということで、オンオフが難しそうですが、営業時間?とかあるんでしょうか。

H:オフィシャルには13時からって言うてる。だいたい電話とか打ち合わせとかが日中小刻みに入ってくるから、その都度集中が途切れる。だから、じゃあ作るのは夜になる。朝までの8時間くらいで2本ぐらいうって、土日は平日こぼれちゃったり、もう少し手を入れないといけないっていうのをやるわけ。あとみんな不思議と午前中は電話してこない。(笑)

——それは皆さんやはりいろいろ察して、暗黙の了解という感じですね。

H:早朝でも夜中でも、とにかく集中できる状況が必要だね。で、仕事が深夜になったりすると、いつからか家に帰らなくなった。僕はずっと仕事してたいっていうタイプで、家に帰るのが面倒くさくなってきた。じゃあ事務所と住居を一緒にしちゃって。休みがあれば、家に居るより、出かけた方がいいだね。

東側に広いベランダがあるから、そこでベランダ菜園なんかもしてる。テーブル出してお茶飲んだ

り。この辺では視界を遮るビルもなくて、たまに虹が端から端まで見えるよ。最上階だから時々こうしてベランダに出てリフレッシュしたりね。

——先日大学のギャラリーで行われたOB展では、「都築の金消し」やいくつかのポスターを拝見しました。

H:OB展では、「べちゃくちゃないと」というイベントのポスターも出したよ。ポスター作ったんだから是非出演して欲しいということで、今年の2月に大勢の人の前で話をさせてもらったんだけどちょっと緊張したね。あと最近でいうトリベラル社さんから出版された、第一弾「名古屋の居酒屋」と第二弾で「名古屋メン」っていう本を作ったよ。この本の外(装丁)は僕が作って、中(本文レイアウト)はマーヤがやってくれた。もう中を作るのは嫌でさ。(笑)

——その発言はどうなんでしょう。(笑)

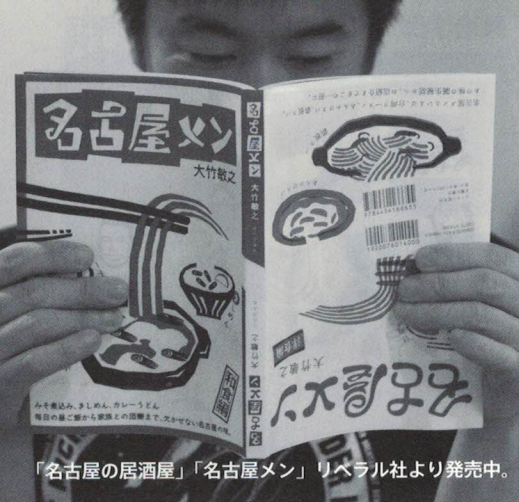
H:同業者なら理解してもらえと思っているんだけど、どうかな。(笑)

著者の大竹敏之さんから掲載予定のお店がリストアップされると、僕らも食べに行ってみたくなるくらい、お薦めのお店ばかりだね。

この本のメインは実は味噌煮込みなんだ。名古屋で麺っていうと味噌煮込みかなって思うんだよね、なんだかんだいって。だから秋に売りましょうということになったんだけど、制作ドキュメントを6月にTV放送するからそのタイミングで売りたいって出版社側から出てきた。でも夏に味噌煮込みってどうなのと。それで何がメインかわからなくなると言うことで、両方に表紙をつけて、こちらは「和食編」で反対側はあんかけパスタなんかの「洋食編」。こうするとだんだん読んでるひとも、どれがメインかわからなくなってきた、暑苦しいこの季節に味噌煮込みなんて…という抵抗もあまり感じずに受け入れてもらえるんじゃないかなと。

□次ページにつづく





「名古屋の居酒屋」「名古屋メン」リベラル社より発売中。



ノベルティの眼鏡でキメル真矢氏



ペランダ菜園にてスイカ



なによりも目立つアマチュアバイクの優勝トロフィー

ひらひでかず

アートディレクター／グラフィックデザイナー
ピースグラフィックス代表

1992年ジャングラフィックス(現たきC1)入社。
10年勤務の末、ピースグラフィックス設立。
屋号の由来は、平井秀和の名前の最初と最後の文字で「平和」になるから。

ひらいまや

グラフィックデザイナー

2つのデザイン事務所で7年間修業後、結婚を機に退社。
成り行きで事務所設立。2008年にピースグラフィックスに吸収され、現在に至る。

——当初の予定とは違うけれど、結果思惑通りの両A面ということですね。

H:…だと思うけどね。(笑)

どちらも装丁には仕掛けが満載なんだけど、第一弾は印刷にも凝っていて、「凸版印刷(とつはんいんさつ)」を使ったんだ。これは印刷の特性から一冊ずつニュアンスが違って、ものによってはゴーストと呼ばれる筋がついたりしてる。印刷業者との調整が難しかったけど、レトロな感じのおもしろい仕上がりになったよ。
ありがたいことに、第一弾、第二弾と売れ行きはいいみたいで嬉しいことだね。

遊びを仕事にする

——お部屋にアマチュアバイクレースのトロフィーがありました、お好きなんですね。

うん、好きだね。バイクで言えば、レッドバロンの新卒採用向けの広告を5年くらいやってたよ。
入社できた人もできなかった人も、ずっとレッドバロンを好きでいてね、バイクをこれからも愛してくださいね、という想いを込めた会社案内がこれ。ちゃんと持ち帰って大事にしてほしいので、一見バイクの写真集みたいな雰囲気にした。文字のページが観音折りで見え隠れする仕掛けになってる。

それに、この会社はバイクが大好きだっていう人にきて欲しいので、会社側のそういった想いも表現されてる。意図しない新卒者をふるいにかける、最初のフィルターになるようデザインされてるんだ。こんなバイク好きばかり集まってくところ無理じゃん!みたいな。(笑)収入の面で銀行を選んだけど、実はバイク好きっていう人をくすぐるようなシズル感全開にしてね。
(会社案内に掲載されている写真を指差して)
ちなみにコレ僕なんだけど、もう撮影の時、最初からバイクに股がる気満々でマイヘルメット・マイグローブ持って臨んだから。(笑)

——ご自身もレッドバロン精神の一部ですね。(笑)プロバイクチームにも参加して、サーキットに出かけてらっしゃると伺いました。お仕事、ということですか?

H:そう、「チームSUGAI」さんね。いろいろあって手伝うようになった。主に頼まれてるのは、雑誌に掲載するための写真を撮ること。レースによっては、燃費を計算したり、外国人ライダーのお世話をしたことも。マーヤも手伝って、えっとこの時は何してたっけ、ご飯を用意してた?!

平井真矢(=マーヤ。以下M):そうそう、メシスタントだね(笑)いつもと変わらないけど。

H: 8耐なんかだと数日間滞在して、丸一日ピットに居る。体力いるし、レース自体はまったく観戦できないけど充実した時間だね。レースもいろんな出会いがあるから楽しいよ。

——裏方さん、サポートスタッフに徹していると。

H: 昔、アマチュアレースでトロフィーもらったから、レースにはもう出ないよ。(笑)怪我すると困る、仕事に支障がでるしね。

やったことないです。…だからやってみよう!

[取材日は本学アートクリエイターコースのインターンシップ最終日。3年生の辻苑夏さんが名刺制作を行っていました。早速、出来上がった名刺を使い、名刺交換のシュミレーション。その後に最終的なデザイン講評などを行いました。]

——今日はインターンシップ最終日ですが、来てみてこの事務所や、平井両先生について感想は?

インターン辻さん:自分がイメージしていたデザイン事務所とのギャップもあって、現場に来てとても刺激的でした。もっとこうPCにずっと向かってガチガチしたような感じを抱いてたんです。でもこういう仕事の仕方もあるんだなって。事務所も私たちが大学でいつも居るアトリエみたいで、すごくアットホームだし。

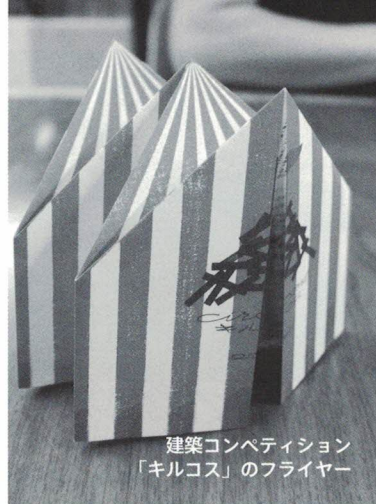
H: いや、すごくガチガちなムードの時もあるんだよ。殺伐とするとときも(笑)

——これだけ忙しくても不安になることが?

H: やっぱり仕事なくなるかもということに対



株式会社レッドバロン 新卒者向け会社案内



建築コンペティション
「キルコス」のフライヤー



インターンが制作した名刺のデザイン講評

しては不安。何歳まで働けるんだろうとかね。今
どれだけががんばれるのかで、デザイナーとしての
寿命が決まってくるんだろうなとは思ってる。

——どのデザインもユーモアがあふれていて楽
しいものばかりですが、お仕事する上でここだけ
は外せない、ポイントはありますか？

H: 大事にしていることは、僕の仕事をみた人がコ
レどうなってんだろう？と、手に取った人が
「おっ!」となるようなものを作りたい。だから結果
として、人に見せたいと思えるような仕事をして
いるつもり。

あとはやっぱり「やったことが無い」ことをしたい
なって思ってる。「他の誰もやってない」っていう
のが理想だけど、ひとつでもいいから自分の中で
今までやったことが無い新しい何かだよね。小さ
なことでいいから、取り入れる。それがないと
内容もルーティンになってきちゃう。レッドバロン
の会社案内だって、観音開きのページがこんなに
続く冊子なんて無いと思うし、「今まで使ったこと
ない紙を試してみよう」でもいいんだ。

だからインターンシップの話が大学からあった時
も、「受け入れたことない」けど、じゃあ「やってみ
よう」ってなる。「うちはインターン受け入れたこと
無いんで、お断りします」じゃなくて、やったことな

いからやってみようって。

——新しいことにチャレンジしていきたい平井
さん、それを支えてるのがマーヤさんですね。

M: そんなに支えてないけど。 (笑) んーでも、
新しい仕事っていう時に「アレ調べて」とか「アレ
どうするの」とかっていうのが必ずあるから、やっ
ぱりいろいろ支えてるかな!

H: 出張の手配とか経理とかもしてもらうしね。
僕がデザイン面を集中してできるように彼女は
フォローしてくれる。例えば僕はいつもマーヤが
散々使ったお下りのPCで作業してる。なぜ
かっていうと、まずPCの設定なんかは不得手だ
から任せる。最新バージョンを使ってトラブル続
きじゃ困るから、まず彼女にこの環境で検証しな
がら使ってもらい、半年ぐらいしてそれから僕が
使うわけ。もちろん最初のアイデア出したいな
ところでは、二人でおしゃべりしながら、僕は横
でいろいろスケッチしてって、意見を出し合い
ながら生まれていくことが多いよ。

——そこから生まれるアイデアもあるんですね。

M: 以前二人で箱状の折り紙をしてて、折り方が

わからなくて試行錯誤やってたら面白い形がで
きた。何か使えそうな気がしてキープ!ってとって
おいたの。それがこの建築コンペティション「キ
ルコス」ののフライヤー制作へのアイデアに繋
がってる。

H: なんかいいなあっていうのは、当ても無く取っ
ておくんだよね。

M: 彼は作ったものは全て取っておきたい「取っ
とき屋さん」だから。当ても無いけどいろいろ
取っておいた結果が、今の事務所の状態。(笑)

H: でもそのひとつひとつが大事でいつか何かに
繋がる可能性があると思ってるからね。

受け手の驚きや発見から、つぎのアクションに繋
がるような仕掛けづくりを心がけているという
ピースグラフィックスのお二人。遊びを待ってい
るおもちゃ箱のようなこの事務所から、次にどん
な面白いものが生まれてくるのか、ますますこれ
からが楽しみです。

ピースグラフィックス ホームページ
URL <http://peacegraphics.jp>

恒例の
三二同窓会
報告!!

! 神清院、河国荘と仲間達! ? 第5回目だよ!



50歳になる前より始めて、早5回目の同窓会です! 少人数ですがい
つも楽しい会となっています。ご家族の参加もふえて今回は次男が
同行しました。気さくで屈託のない集いですので参加ご希望の方
は、吉崎、もしくは岩井先生までご一報下さい! 次回は信州方面を
予定しております。2014年6月第一土曜日~日曜日です。
それまで皆さん元気で参りましょう! ^ ^ !

[第5期彫刻科 吉崎大樹]

吉崎大樹 〒705-0003 岡山県備前市大内679-13
メールアドレス b.morning-2006@docomo.ne.jp
岩井義尚 メールアドレス yoshi-iwai@nua.ac.jp

伊勢、麻吉旅館と伊勢神宮参拝でした。
現地での幹事: 花井利彦君 (写真右角/ 第5期絵画科洋画専攻)



「アートが目」で
日常をおもしろくしたい

松村 淳子さん

美術文化学科 34期卒

大学を卒業し、様々な現場で美術と子どもをつなぐ活動を行ってきた松村さん。現在所属する愛知県児童総合センターでの仕事内容と、これからの展望をうかがいました。

卒業すぐに小牧市にあるメナード美術館の非常勤職員をはじめました。事務職でしたが、ショップ運営やホームページ管理、教育普及事業、美術館のリニューアル、作品に関わる学芸の仕事に触れる機会もあり、本当にいろいろな体験をすることができました。

その後、2010年には愛知県初開催の芸術祭「あいちトリエンナーレ2010～都市の祝祭」に、教育普及部門アシスタントエディターとして関わることになりました。そこではガイドボランティアの育成や運営が主でしたが、ワークシートや子どものための鑑賞プログラムを大学生とともに開発する、という事業にも関わりました。大変な面もありましたが大いに刺激になりました。

その後、現職である愛知県児童総合センターでの4月から準職員としてお世話になっています。

また、仕事とは違うところでは、美術館やそれ以外の場で行われるワークショップの企画に参加したり、スタッフとして関わることもあります。また、愛知県内の美術教育関係者が集う、美術教育の研究会に参加するなど、大学の頃に興味を持った分野を深め、広げていけるように自分なりに活動を続けています。

——愛知県児童総合センターはどのような施設なのか、教えてください。

1996年に開館した県立の大型児童館で、遊びのプログラムの開発・実施、子育て支援や児童厚生、ボランティアの養成・研修、子どもに関する講座やシンポジウムの開催、移動児童館など、さまざまな活動を行っています。特徴的なのは、アートを積極的に取り入れようとしているところだと思います。アートと遊びには通ずる部分があると考え、アーティストと遊



センターのシンボリック存在、チャレンジタワー

びのプログラムを開発、作品展示を行なっています。

「アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム—汗かくメディア」と題し、遊びのためのメディアアートプログラムを毎年全国公募し、選出作品を公開展示するなど、様々な展開しています。

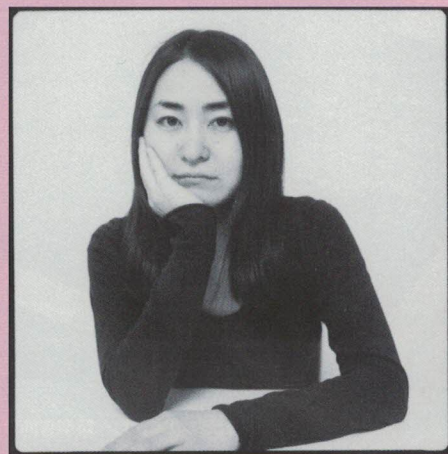
——センターの仕事を行う上で、松村さんが大切にしていることは何でしょうか？

センターは一日に300人以上、休日や長期休暇の時期には1000人～2000人以上が訪れる大型施設です。このようなところで、子どもたち一人一人とじっくり関われる機会はあまりないのが実情です。しかし、子どもたちと接するわずかな時間の中でもその子と向き合い、何を見つけたのか、何を感じたのかに共感しその子を尊重したい。でも、干渉しすぎない、そんな距離の持ち方を心がけています。



——最後に、今後実現したい目標があれば聞かせてください。

「日常アート化」をキーワードに、「アートが目」で日常がおもしろくなるようなアートプログラムの開発をしたいと思っています。対象としてはもちろん子どもがありますが、今は認知症に関わっている人にも興味を持っています。これからは、センターでの仕事を拠点にしながら、ユニットを組んだり個人であったり、自分でアートプログラムを提案し実施、継続していきけるような活動もしていきたいです。



La Métamorphose à Paris

鈴木 登志代さん

絵画科日本画専攻 32期卒

INFORMATION

同窓会ホームページを

ご活用ください。

アクセスは <http://www.gakushuin.ac.jp/~artdesign/>



facebookに

同窓会ページを

開設しました。

名古屋芸術大学 美術・デザイン学部同窓会としてfacebook上にページを開設し、試験的に運営しています。役員会議の報告、行事報告、OBOG展覧会情報の発信を行っています。「いいね!」ボタン押していただけただけなら幸いです。よろしくお願いします!!

大学院の2年間とその後の2年間、作品が常に大きく変化し続けた鈴木さん。
さらなる進化を求めて2009年ワーキングホリデーで1年パリに居を移します。
そして翌年、美大留学に向けて再度語学勉強のためパリへ。2011年9月、3年編入でEcole des beau-arts versailleへ入学。
パリで出会ったピアニストとのコラボレーションによる映像作品発表のため、今年1月に一時帰国した鈴木さんに直撃インタビューしました!!

——なぜパリだったのでしょうか？

パリには古くても良いものを大切にしていける空気がある。古典と現代アートが自然と解け合う街。またアーティストと出会う機会の多さは日本と比べものにならないです。日本にいたら埋もれてしまう・そんな気持ちから留学を決めました。

——どのような勉強をされるのですか？

現代アートです。大学もさることながら以前か

らあこがれていたアーティスト黒田アキさん(パリ在住)との出会いから、ご本人の仕事のお手伝いをするようになりました。どこから取り掛かっていいのかわからない現代アートの世界について、見せ方、考え方などプロ意識を直に学んでいます。また自分の思想を再構築させるエネルギーを貰っています。

——今年1月に、日本にてピアニストとのコラボレーションで映像作品を発表しましたね。

パリでピアノを勉強している女性と2人で何かやろうと思い、夢は大きく膨らみつつありますが、まず出来る事から行動に移そうと、若手アーティストの育成に力を入れ、情報発信してくれるあいちアトラボの存在を知り実現しました。初の映像作品発表です。

——次の動きは？

パリでも今回の作品を発表するつもりです。いろいろなアーティストと音のコラボレーションをしていきたい。

——自ら道を切り開いて動き、変化し続ける鈴木さん。同じようにアーティストを志す方々にメッセージがあればどうぞ。

今、私と同世代の同じ芸芸出身の作家たちをみても、作家として、メキメキ力をつけているなあと感じ、パリにいたとなお、アート業界で活躍する同世代をより感じます。それは、若い時からストイックに突き詰めてきたものの姿勢の違いと、業界と時代を見る目の違いなのでしょう。まだまだ自分のやっていることはままだと感じています。どこかでもっとメタモルフォーゼしていかなばと。この視点にたてたのも、パリで世界と戦うアーティストたちを目の当たりにできたからだと思います。学生であるうちは何も分からなくても、そこから5年、10年すると急に成熟してくることはあるはずです。みなさんも、今はいろんなところにアンテナを張って頑張ってください。

作品展に於ける後援について

規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2. 後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

3. 手続き

- イ) 会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。
ロ) 作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。(尚、DM及び写真は資料にするため返却不可。)

4. 条件

イ) 作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5. 再振込の手数料ご本人負担について

イ) 報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料(840円)と、再度振込時の手数料(三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円)を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部 同窓会事務局
愛知県北名古屋市徳重西沼65 TEL0568-24-0325

後援を行った展覧会については、同窓会ホームページにて報告させていただいております。ご確認ください。

再度確認を！お願いします！

振込先の口座番号など、間違いが大変多くなっています。

書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。よろしく願いいたします。

後援依頼	報告書
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第〇期〇〇〇科卒業 〇〇〇〇〇 印 〇年〇月〇日	名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第〇期〇〇〇科卒業 〇〇〇〇〇 印 〇年〇月〇日
下記の作品展について後援をお願いします。	
1) 名 称 〇〇〇〇展	1) 名 称 〇〇〇〇展
2) 場 所 〇〇〇ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場 所 〇〇〇ギャラリー (住所・電話番号)
3) 会 期 〇年〇月〇日～〇年〇月〇日迄	3) 会 期 〇年〇月〇日～〇年〇月〇日迄
4) 代表者(出品者) 氏 名(第〇期〇〇〇科) 電話番号 郵便番号・住所	4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所 ※氏 名(第〇期〇〇〇科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入
	5) 入場者数 〇〇名
	6) 写真 写真〇点添付致します。
	以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/〇〇銀行・〇〇支店・〇〇座・No.〇〇 口座名義(フリガナ)



家族とともに作り上げる

平田 隆宏さん

絵画科洋画専攻19期卒

あさご
芸術の森
大賞受賞

普段は学校法人東海学園【中学校・高等学校】にて美術と技術を教えていらっしゃる平田さん。洋画を卒業後、現在は彫刻制作に励んでいます。今回コンペにて大賞を受賞、また伝統ある彫刻展では名誉ある作品現地設置する賞を受賞されました。



——「第10回あさご芸術の森大賞展」では大賞を受賞、本当におめでとうございます。また宇部の「第24回UBEピエンナーレ[現代日本彫刻展]」でも入選と立て続けに受賞ということで、本当によかったですね。

ありがとうございます。本当に嬉しいです。

——UBEピエンナーレの搬入風景がWeb上にあったので動画を拝見しました。倍速で撮影されているので、ちょっとコミカルな動きに見えてきて違った意味でも楽しめました。

ちょっとこっちにやってみたり、でも接合部分が合わなくて一旦降ろした作品を、また重機で持ち上げたりと、作品を置く区画まで移動させてから、さらに設置完了までにだいたい二時間はかかりましたね。



《間夜の光》 UBEピエンナーレ、実物制作指定での設置風景

——この石は10t!すごいですね。

はい、とにかく数字からしても重くて、とても固い石ですね。

UBEピエンナーレは現地での設置依頼があってから、制作期間は10ヶ月あるんです。それだけあれば余裕のはずでした。

でもこの素材はインドから直接輸入したのでとても大変なことになってしまいました。「インド黒御影石」という石なのですが、一番大きな石屋さんにも、希望するような良質な石が見つからず、しかたなく商社経由で無理を言ってお金を払って輸入してもらったんです。1月末に納品する予定が、3月末になってしまっ

て設置期限が8月31日ということで、制作期間が6ヶ月を切ってしまいとても慌てました。その頃は子育てでも大変な時期で、しかもスキルアップのために大学にも通っていて、仕事、子育て、大学と、とにかく睡眠不足が酷かったです。

海の向こうから送られてくるので、様子もわからずドキドキしました。

彫刻の行方

——宇部の展覧会は伝統のある彫刻展で、現地で作品を設置できるという「実物制作指定作品」になったことは大変なことですね。

歴史ある展覧会ですし、私としてはとても名誉なことですね。名古屋芸術大学卒では現地制作設置は初めてだと記憶しています。

——現地で設置後はどうなるのですか…?

来年の5月までに寄贈が撤去を選択しなくてはなりませんでした。ですがそこへ東海高校からお声がかかり、買い上げてくれるというお話を頂きました。とても助かりました。今年の4月から高校の敷地内に設置されています。

大賞をいただいた「あさごの森美術大賞展」はあさごの森美術館への買い上げ作品となりました。さらに高校に買い上げていただくことになった訳ですからありがたいことです。こうして校庭に置かれているので、いつも学生や教職員の方の目に触れる場所にあり、いろんな方に観てもらえますね。



東海高校での設置風景

筆からノミへ

——元々は絵を描いてらっしゃったのが、石を削る仕事になった。その経緯を教えてください。

筆が折れたんです。いや(笑)本当に書いてると、入り込むというかキャンバスに向かって力が入りすぎて、筆が折れたり、キャンバスが破れてしまったりということは確かにありましたが…。冗談は抜きにしても、素材に限界を感じた、とてもいいかもしれません。彫刻だとそういった自分の作品への想いを物理的にも受け入れてもらえる気がして彫刻を始めたという経緯があります。彫刻といっても素材も含めいろいろな選択があるなか、やはり石を削るという行為が自分には一番合っていると思いました。

——作品のコメントに「無我夢中でがんばる。自己ベストを更新したい…(略)」とありますが、何の記録ですか?

さらにがんばる自分といいますか(笑)

さきほどの宇部の作品でもそうですが何ヶ月も石を削り、磨き続ける行為というのは大変なことですね。一日石に向かっていると体力的にもヘトヘトになって、夜はバツリ寝てしまう。でも絵画だと、寝る前に絵について悩む。でも彫刻だと、そんなあがきなんて無駄と感じるほど悩んでいる余裕も無いくらい、戦いですね。固くて手強い石を削り落とすという潔い作業で、毎日自分の気力体力すべてで挑戦しているという感じです。

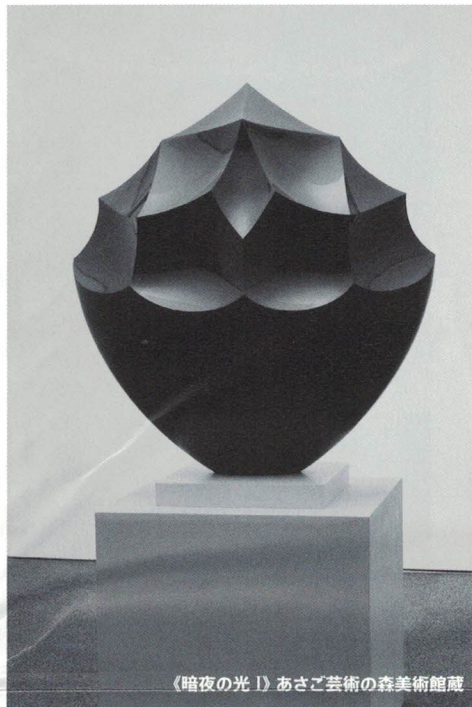
家族と共に

——高校では今時の若者を相手にするのは、なかなか手強いのではないですか?

生徒たちに少しでも手を抜くとすぐ見破る。生徒にも、子育てにも手を抜かずにがんばって精進していく、そんな気持ちです。

作品作りの上でも家族のサポートはとても重要で、これらの作品は表向きには僕の名前だけが出ているけど、妻や子供たちと一緒に完成させたと思っています。

彫刻の仕事はとにかく時間がかかります。特に僕は



《暗夜の光 I》あさご芸術の森美術館蔵

削り終わってから、さらに二ヶ月間ひたすら磨く。それだけの期間取り組むには独りよがりでは出来ません。作品をつくること自体は僕自身のためであるわけですが、家族がいなければやりきれない。まるで家族とともに作っているそんな感覚です。感謝しています。

——体力的にも精神的にもサポートしてもらっているということですね。

僕は体力も意外と無くて弱い部分がある。今回こうして受賞が続きましたが、一時期はコンテストに出しても入選もしない、作っても作っても売れないという時も長く、本当に落ち込みました。

でも、邪なことを考えずに、作りたいものを作ろう。少人数でもいいから僕の作品を理解してくれる人が居るならそれでいい、丁寧にのんびりやろうと気持ちを切り替えてこのシリーズを作り始めたんです。そうやって少し吹っ切れたんですね。高校に置かれたこの作品も、教え子たちから「すごい!」だの「でかい!」だのと、作品について感想を言ってくれて、嬉しいですね。

——平田さんが作ったものを介して、新しいコミュニケーションが生まれていくということは、とても微笑ましいことですね。作品のタイトルにも「闇夜の光」、「暗闇の光」と付けられ、何か希望のような、祈りのような意図を感じます。

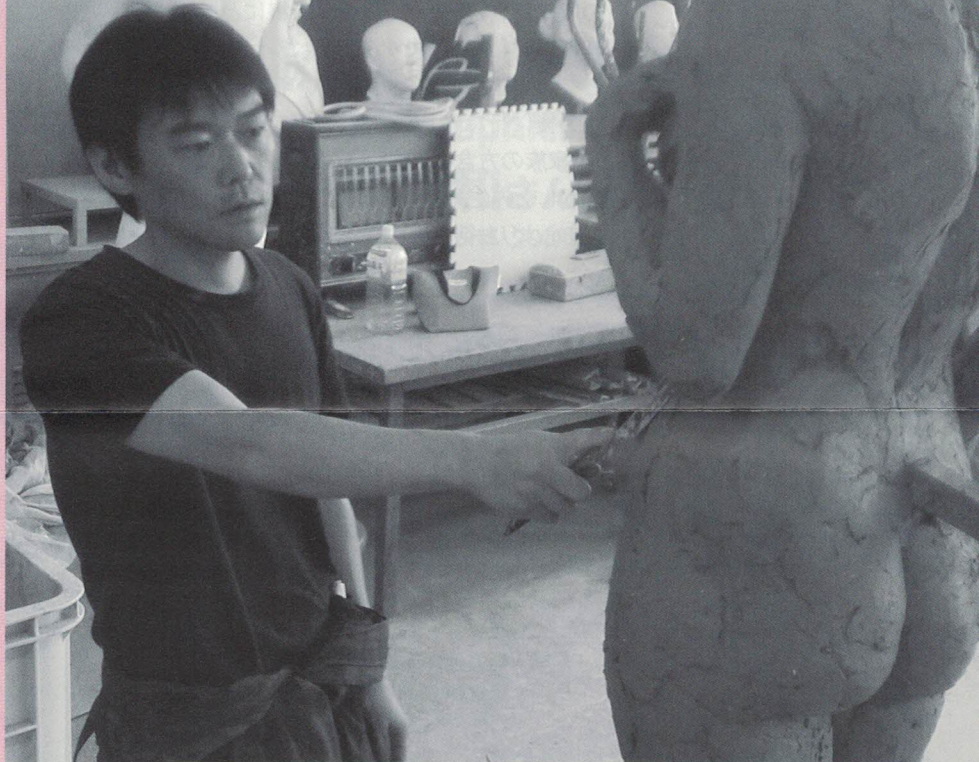
自分の邪な気持ちへの戒めでもあります。今は平常心でまともな事を考えられる状態ですが、窮地に追い込まれるような不測の事態になったとしても、心強く、しっかりと物事を考えられるだろうかと、そんな状態でもちゃんと強くありたい、間違った道に逸れないようにと、自分自身に刻み込むようなつもりで制作しています。これは自分自身の美学や哲学が反映されていますね。

作品は闇夜の中や、夜明け前、山や押し寄せる波、高見に昇っていくようなイメージを抱いています。制作は手探りなところがあって、これでいいのかどうか迷いながら暗闇を歩いている。でも石を磨きつつ、自分の技や心も磨いていきたい、そんな気持ちが形になって生まれています。

彫刻科卒 3 人目の博士号取得!

三政 洋一さん

彫刻科 31 期卒



——博士号取得おめでとうございます。正式な博士の名称をおしえてください。

ありがとうございます。正式には、博士(芸術学)(筑波大学)と表記します。

——なぜ、博士号を取得しようとしたのですか?

私は名古屋芸術大学の大学院にも進んだのですが、終了後の進路を考える際に、もう少し彫刻について勉強したいという思いがありました。

そうした中で、神戸峰男先生から博士課程のある筑波大学に進学するのはどうかというアドバイスをいただきまして、同大学院を受験し、運良く合格しました。どちらかと言えば、当初は、博士号を取得することが目的と言うよりも、新しい環境でもっと彫刻について勉強したかったというところでしょうか。

——博士号を取得した道のり、研究の内容はどのようなものなのでしょうか。

博士課程ですので、博士論文を提出し、審査に合格しなければ修了できません。

私は、明治後期から昭和中期にかけて活躍した、彫刻家の吉田三郎(1889—1962)を自身の研究対象に定め、論文では明治以降の日本の彫刻界の事象をいながら、吉田の生涯と作品について論述しました。

——博士号今後、どのように活かしたいですか?今後の抱負をお聞かせください。

結果的に、私は名古屋芸術大学の彫刻科卒業生の中で3人目の博士号取得者に当たると言うことで、2人の先輩方に続くことができとても嬉しく思っています。私の場合、課程博士で博士号を取得しましたので、博士号の取得は、これから何かしら研究していく上で、スタートラインに立てたのだと思っています。

博士論文の研究では、私に近代日本彫刻史に関する研究でしたが、今後は戦後から現在に至る彫刻表現の研究や、あるいは美術教育など、より視野を広げながらこれまでの研究を深めていきたいと思っています。そして、そうした研究を通して現代に生きる自分なりの表現を追求したいと考えています。

——最後に、同窓生に向けて一言お願いします。

私は名古屋芸術大学、筑波大学と2つの大学で学んできましたが、本当に先生に恵まれたと思っています。

また、名古屋芸術大学の彫刻科に在籍しているときは、卒業・修了された先輩方と交流させていただき、様々なことを教わりました。後輩の皆さんには、今の自分の制作研究を軸としながらも、先生や先輩の展覧会なども積極的に足を運ぶなどし、いろいろなことを学びながら、自分の可能性を広げていただけたらと思います。

——どうも、本日は貴重なお話をありがとうございました。

第25回 同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ

第25回同窓会総会を、この11月に開催いたします。
本年度も「ホテルルブラ王山」が会場となります。
総会では昨年度の活動報告、これからの活動予定、予算
の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を
議事運営しております。懇親会だけではなく、総会から
のご参加くださいますようお願い申し上げます。
総会後に行なわれます懇親会につきましては、会費無料
(ご家族の方含む)でございます。
懐かしい先生方、ご友人との再会の場として、皆様のお越
しを心よりお待ちしております。

場 所 ホテル ルブラ王山

住所 〒461-8525

愛知県名古屋市千種区覚王山通8-18

電話 052-762-3151

会場ホームページ <http://www.rubura.org/>

日 時 平成24年11月11日(日)

総 会 15:20より B1階 弥生の間にて／受付は14時40分より

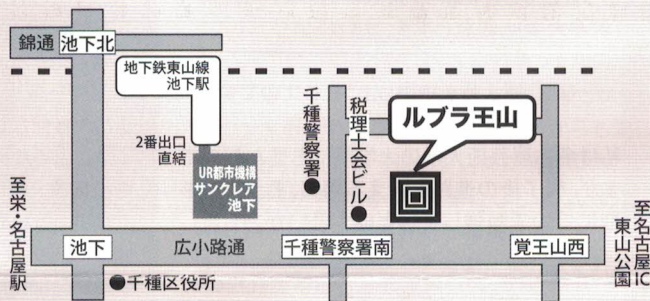
総会終了後、懇親会を行います／会費無料

※駐車場はございますが、すべて有料です。

懇親会のお料理にはアルコールが使用してある場合がございます。

お車でのご来場は、ご遠慮ください。

◎アクセス



- 地下鉄東山線池下駅下車 2番出口(サンクレア池下地下1階)より徒歩3分
- 名古屋駅より地下鉄東山線で13分
- 市バス池下下車徒歩2分
- 東名高速道路利用の場合は名古屋インターより西に約20分
- 東名阪経由名古屋高速吹上東出口より車で7分



昨年の懇親会ではオープニングにて「Theキャンプ」のライブを敢行。ライブハウスとは違う条件下での演奏は調整が難しかったのですが、大きなホールでのパフォーマンスはなかなか気持ち良かったかと、メンバーの皆さんの感想でした。豪華?!景品のくじ引き大会では、数字がアナウンスされるたび、会場に歓声やため息が。
また、同窓会役員の功労者表彰も行いました。

同窓会役員紹介

[2012年9月現在]

記事へのお問い合わせは…

T481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65

名古屋芸術大学西キャンパス内

美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛

tel. 0568-24-0325(大学代表)

fax. 0568-24-0326

会長	4期	デザイン	青木高弘
副会長	19期	洋画	平田隆宏
副会長	20期	洋画	芳賀基純
理事長	5期	彫刻	岩井義尚
理事(会計)	5期	洋画	杉浦尚史
理事(会計)	19期	洋画	石川重明
理事(会計)	20期	日本画	中村恵美子
理事(書記)	5期	日本画	白井久義
評議員(書記)	23期	日本画	岡本昌子
理事(事務局長)	20期	洋画	浜辺由美
理事	12期	日本画	荒木紀江
理事	21期	デザイン	永井瀧登
理事	22期	日本画	鈴木淳子
監査	23期	デザイン	小林聖知
監査(税理士)	4期	デザイン	福海幸雄
評議員	22期	彫刻	平田俊也
評議員	22期	洋画	鈴木琢磨
評議員	27期	洋画	小竹陽子
評議員	28期	日本画	鎌田桂太郎
評議員	28期	日本画	佐竹亜希子
評議員	28期	日本画	水野加奈子
評議員	28期	彫刻	加藤雄一郎
評議員	33期	日本画	長谷川基子
評議員	33期	日本画	福本百恵
評議員	35期	デザイン	永田敦子
評議員	36期	日本画	磯田衣里
評議員	37期	日本画	中村朋恵
評議員	37期	日本画	水野愛弓
評議員	38期	日本画	市川岳志
評議員	38期	日本画	磯部絢子